

| | | | | | | | |
|---|--|-----|------|---------------------|------------|-------|----|
| 授業科目 | 観光倫理特講 Tourism Ethics | | | 担当教員 | 木村 勝彦 | | |
| 展開方法 | 講義 | 単位数 | 2 単位 | 開講年次・時期 | 1・2 年／前期 | 必修・選択 | 選択 |
| 授 業 の ね ら い | | | | | | | |
| この講義は、現代観光をめぐるさまざまな問題（文化・宗教による価値基準の違いと観光行動との矛盾、観光開発の是非、観光客と地域住民との軋轢等）に関する検討を通して、21 世紀における観光の「あるべきかたち」「望ましいあり方」とは何かについて主体的に問い直すとともに、観光研究の視点および方法論に関する学問的吟味の能力を修得することを目標とする。 | | | | | | | |
| 観点 | 学生の授業における到達目標 | | | 評価手段・方法 | 評価比率 | | |
| 関心・意欲 ・態度 | 具体的な事例の検討を通して、現代観光の倫理的問題性について討議することができる。 | | | ・授業態度・参加 ・課題レポート | 20% 10% | | |
| 思考・判断 | 観光の倫理的規範について考え、観光の「あるべきかたち」「望ましいあり方」を指摘することができる。 | | | ・授業態度・参加 ・定期試験 | 10% 10% | | |
| 技能・表現 | 観光倫理のさまざまな概念と視点を、自らの研究テーマに関連づけて使用することができる。 | | | ・授業態度・参加 ・課題レポート | 10% 10% | | |
| 知識・理解 | 観光倫理をめぐる現代の主要な研究業績や潮流について説明することができる。 | | | ・定期試験 ・課題レポート | 20% 10% | | |
| 出 席 | | | | | | 受験要件 | |
| 合 計 | | | | | | 100% | |
| 評価基準および評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| 評価は定期試験 30%、課題レポート 30%、授業態度・参加 40%の配分で行う。定期試験は授業テーマと自らの研究テーマを関連づけたレポートの提出により行うものとして、主要な先行研究の問題提起を的確に理解し、観光倫理のさまざまな概念と視点を十分に用いることができているかを評価基準とする。課題レポートでは自らが解題を担当するテキストの内容を十分に理解し、幅広い文献・資料にも意欲的に当たって、内容豊富で問題提起的なレジュメを作成することができるかによって評価する。授業態度・授業参加については、発表をめぐる受講生同士の討論や教師からの発問に対する応答の内容を評価基準とする。 | | | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | | | | | | | |
| この講義では、そもそも人間にとって「旅」とはどのような意味を有するのかという人間学的な研究からはじめて、観光に関する倫理学・社会学・人類学あるいは宗教学の分野の代表的かつ問題提起的なテキストを講読するとともに、受講生のテキスト解題にもとづく研究発表と討論によって、観光という現象についての倫理的考察を深めていく。 | | | | | | | |
| 教 科 書 ・ 参 考 書 | | | | | | | |
| 教科書：David. F. Fennell, <i>Tourism Ethics</i> , 2006. 参考書：John Urry, <i>The Tourists Gaze: Leisure and Travel in Contemporary Societies</i> , 1990. John Lennon and Malcolm Foley, <i>Dark Tourism</i> , 2010. | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| 観光そのものの倫理的考察は観光研究にとって基本的な問題であり、この講義は観光学専攻の「共通」分野に位置づけられている。観光学専攻の院生諸君はその意味を十分に理解し、意欲的に取り組んで欲しい。自らが担当するテキスト解題については、そのテキストはもとより、関連する文献や資料にも幅広く当たることによって内容豊かなレジュメを作成し、問題提起的な発表とするよう期待する。 | | | | | | | |

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|----|------------|---|---|
| 1 | 観光倫理の基礎(1) | John Urry の「まなざし」論を用いて、この講義における観光研究の視点への導入を行う。 | Urry のテキストの復習と、現代の知識社会学の予習。 |
| 2 | 観光倫理の基礎(2) | 現代的なく知・知識の表現形態の一つとしての観光理解のあり方について考察する。 | 現代の知識社会学の復習と、社会的行動論の予習 |
| 3 | 観光倫理の基礎(3) | 観光という社会的行動が意味するものの歴史的変遷について考察する。 | 社会的行動論の復習と、真正性に関する予習 |
| 4 | 観光倫理の基礎(4) | 観光で問題とされる「真正性(Authenticity)」に関するさまざまな議論について考察する。 | 真正性に関する復習と、グローバルイゼーション論の予習 |
| 5 | 観光倫理の基礎(5) | 観光にとってのグローバル化の意義と問題点について考察する。 | グローバル化に関する復習と、Fennell のテキストの予習 |
| 6 | 観光倫理の構築(1) | 観光倫理の研究史を概観した上で、Fennell のテキストの講読を通して、観光研究における倫理的考察の必要性に関する認識を深める。 | 観光倫理の研究史に関する復習と、Fennell のテキストの予習 |
| 7 | 観光倫理の構築(2) | Fennell のテキストの講読を通して、住民の意思や利害との関係における観光開発の倫理的問題性について考察する。 | 観光開発の倫理に関する復習と、Fennell のテキストの予習 |
| 8 | 観光倫理の構築(3) | Fennell のテキストの講読を通して、観光資源の商品化との関係における観光産業の倫理的問題性について考察する。 | 観光産業の倫理に関する復習と、Fennell のテキストの予習 |
| 9 | 観光倫理の構築(4) | Fennell のテキストの講読を通して、観光倫理の視点から「さまざまな差別・格差」の問題について考察する。 | 差別・格差に関する復習と、Fennell のテキストの予習 |
| 10 | 観光倫理の構築(5) | Fennell のテキストの講読を通して、観光が作り出す文化としての「観光文化」のもつ倫理的問題性について考察する。 | 観光文化に関する復習と、Fennell および Lennon & Foley のテキストの予習 |
| 11 | 観光倫理の射程(1) | Fennell および Lennon & Foley のテキストの講読を通して、ダークツーリズムという観光のあり方ももつ倫理的問題性について考察する。 | ダークツーリズムに関する復習と、Fennell および Lennon & Foley のテキストの予習 |
| 12 | 観光倫理の射程(2) | Fennell および Lennon & Foley のテキストの講読を通して、広島・長崎という原爆被災地をめぐる観光の倫理的問題性について考察する。 | 広島・長崎に関する復習と、Fennell および Lennon & Foley のテキストの予習 |
| 13 | 観光倫理の射程(3) | Fennell および Lennon & Foley のテキストの講読を通して、沖縄など日本各地の戦争遺構をめぐる観光の倫理的問題性について考察する。 | 日本各地の戦争遺構に関する復習と、Fennell のテキストの予習 |
| 14 | 観光倫理の射程(4) | Fennell のテキストの講読を通して、宗教的聖地と観光の倫理的問題性について考察する。 | 宗教的聖地に関する復習と、Fennell のテキストの予習 |
| 15 | 観光倫理の射程(5) | 観光の「あるべきかたち」あるいは「望ましいあり方」について総括的に考察する。 | 講義全体に関する整理・復習 |